Kumamoto Mental Health Hospital "REFLE"

りふれ

2024
Autumn
秋号
Vol.
80

医療法人 再生会
くまもと心療病院

地域に開かれた病院を目指して…

理念

くまもと心療病院は、精神障害者と共に暮らす、より良き地域社会の実現に向けて、地域における精神保健・医療・福祉に奉仕します。

基本方針

1. 患者様やご家族に満足していただくために、医療サービスの質の向上に取り組みます。
2. 全職種が一体となり、チーム医療を実践します。
3. 患者様の人権を尊重し、人に優しい安全な医療を提供します。
4. 患者様の地域生活を支援します。

巻頭言　2024年　秋

医療法人再生会　くまもと心療病院　理事長・院長　荒木 邦生

2024年の夏はつらかった。あんなに暑い夏が長く続くなんて。高齢化した体力と気力では、乗り切れるかどうか心配だった。しかし10月に入っても、まだ気持ちの良い季節というにはほど遠い。今のところ安定した天気と澄み切った青空が待ち遠しい秋である。

ところで、正月に大きな地震があった能登地方に、今度は大雨が降り被害がより一層拡大した。ニュースを見ていると、元々人口減少と過疎化で悩んでいた地方が、大きな災害が重なり、地域そのものが消滅する危機にさらされている。思い起こせば、東日本大震災で地震と放射能で消滅した地域はいまだ復活できていない。災害対策がこれからの日本の大きな課題となることは間違いない。

病院は人手不足に悩んでいる。退職者がこれ以上でると、基準を割り込んでしまう可能性があるため、60床ある西2階病棟を当面50床で運用することになった。元々当院は322床だったが新築後に 282床になり、この10月からは 272床の運用になる。むかし増床を繰り返して大きな病院に成長させた亡き父が知ったら怒り心頭だろう。今後も精神科病院は低い診療報酬と病床利用率の低下、人手不足に悩まされるだろう。とくに医療や福祉は人こそが大事である。いくらIT化をすすめても、人が居なければ成り立たない業種である。これまでもそうであったが、これからはますます良い人材がどれくらい病院にいるか、そのことこそが病院の財産となるのだろう。

ところで、衆議院の解散と総選挙が行われる。石破内閣が発足したばかりですぐに解散というのは、私には意味が解らない。何もしていないのに国民の評価を問うというのは、いったい何をどう評価すればよいのか。早期解散には不満があるが、石破総理は私と同じ年であり同情も感じている。70歳を目の前にして日本国を背負う重責を果たすことはさぞかし大変だろう。仲間が少ないと潰されてしまう。これからは担ぎ手の仲間を増やして重い荷物を持ち上げてほしい。私も良き人材と良き仲間を増やして難局を乗り越えたいと思っている。

りふれ　2024年 秋号の表紙 ・・・ 紅葉の帳（もみじのとばり）

一面に染まった紅葉を「帳」に見立てた言葉です。今でいうならば、紅葉のカーテンでしょうか。実際にこの風景を目にした時には、思わず声が出てしまうくらい美しいと思いました。場所は垂玉温泉に行く道中で見ることができます。紅葉狩りに行かれてみてはいかがでしょうか？　（撮影者：東３階病棟　柿本 実穂／職員写真コンテスト入賞作品）

こころの
寺子屋
てらこや

第16回
推し活

突然ですが、皆さんには「推し」はありますか？「推し」とは自分が推薦するもので、対象はアイドルであったり、俳優であったり、また漫画の主人公であったり、食べ物巡りであったりと多岐にわたります。私も長年推し活なるものをしており、その男女比を見てみると圧倒的に男性のファンが多く存在する団体への推し活動です。最初は子供たちと一緒に楽しんでいたのですが、やがて成長していき私の手元から離れ、今では一人で「推し活」を続けています。

推し活動は幅広く、様々な楽しみ方がありますが、得られるものには、「人生を豊かにする楽しみ」「心身の癒し」「仕事や勉強、自分磨きのモチベーション」「同じ趣味を持つ友達ができる」などです。推し活は、人生を豊かにしてくれる楽しみであり、実生活での身体的、精神的な疲れを癒してくれるものです。中には推しが存在するというだけで幸せな気持ちになれ、落ち込んでも嫌なことを乗り越えられたり、ストレスを軽減できたりする人もいるようです。皆さんの中にも、うんうんと頷いている方もいらっしゃると思います。それだけ「推し活」は自分にとって大事なことなのかがわかりますね。年に２回熊本にやって来る推し団体に会いに行くことが、今の私にとってはこの上ない楽しみであります。

さて私が所属している外来は、様々な悩みを抱えた方、病気に苦しんでおられる方、我慢して我慢して、どうしようもなく辛くなって受診を考え来院される方など様々な方が来られます。温かく寄り添ってお話しを聞くことにより、それだけで不安が軽減され、表情が柔らかくなっていかれるのがわかります。お話しを聞く、傾聴するという行為は、聞き手となる看護者自身に心のゆとりがないと、満足したものを提供することができません。傾聴とは、共感し、相槌を打ち、相手との信頼関係を構築するとともに、相手の言いたいことを引き出す作業が必要です。迫りくる業務への焦り、次々に鳴る電話の対応、次第に自分自身にゆとりがなくなると、傾聴という行為が満足にできなくなるのです。その心のゆとり、安定を図るものの一つとして、年に２回の「推し活」とその後の反省会が、私には必要だと感じています。反省会の店で知り合った若い夫婦や常連客など、年齢や性別の垣根を越え知り合った方々とのご縁が出来たことも、「推し活」による私の財産となっています。

今度も、若い新人が０試合の自分の試合を行い、その後はリングサイドの補助や雑用などに回って頑張っている姿を応援に行きます。数年後には立派な衣装に身を包み、自分のキャラを固めて新しいユニットを結成し、成長し活躍していく姿を追って見ていくことが、ものすごく楽しいし、愛着が湧いていきます。みなさんとはちょっと違う「母ごころ目線」の推し活に、とても充実しワクワクしてしまいます。

まだされていないという方は是非、「推し活」いかがですか？

Profile　外来　本田 真由美　Mayumi Honda

経歴
平成13年　くまもと心療病院入職
平成29年より　外来師長就任

資格等
・看護師
・日本精神科病院協会「上級コース（現シニアコース）」修了
・日本精神科病院協会「医療安全管理者」認定
・認定看護管理者教育課程ファーストレベル修了
・AHA ACLSプロバイダーコース修了

特集 Special Feature

納涼 夏祭り

８月９日（金）、当院体育館にて５年ぶりとなる納涼夏祭りが開催されました。コロナ渦以降は各病棟で開催していた夏祭り。病院全体で開催する行事自体が久しぶりとなったことや、新棟完成後としても初の開催であり、近隣の方々にお集まりいただけるだろうか、と心配をしていましたが、300名以上の方にお越しいただきました。

体育館では、たんぽぽ保育園の園児たちの踊りや宇土高校和太鼓部による迫力ある和太鼓の演舞を披露していただきました。また今年はキッチンカーにも来ていただいて、牛タン串やたこ焼きなどの魅力的な食べ物で祭りを盛り上げていただきました。

同じ空間で笑顔の時間を共有でき、患者様やそのご家族様、地域の皆様、そしてわれわれ職員のとてもよい地域交流の場になりました。地域に開かれた病院を目指して、今後もこのような機会を大切にしてゆきたいと思います。

家族教室

当院では、年に２回家族教室を開催しています。講師をお招きし、病気や福祉制度についての知識を学んだり、患者様のご家族同士で話し合う時間をもうける場となっています。

令和６年度第１回家族教室を９月21日に当院にて開催いたしました。今回は、当院薬剤科・和田和泉先生より「精神科で使う薬について」の講話をしていただきました。病気に向き合い、病気を持ちながらも自分らしく過ごしていくために、服薬の継続はとても重要になってくるということを改めて学ぶことができました。

ご家族同士の意見交換の場は、ご家族が日々考えておられる悩みや想いについて知ることができる、貴重な時間となりました。これからも患者様ご本人はもちろん、ご家族の思いにも寄り添う支援を心掛けていきます。

次回は冬頃開催予定となっています。

日々研鑽（ひびけんさん）

第16回

院内講演会

講師の 吉川 隆博 先生

８月23日、当院体育館において院内講演会が開催されました。今年度は、講師に日本精神科看護協会の吉川隆博会長をお迎えして、「虐待防止～法改正を踏まえた組織作り～」というテーマでご講演いただきました。虐待は決して特別なことではなく、「どこでも、誰にでも起こり得る」可能性があります。虐待を防止するためには、起きることを前提に「リスクマネジメント」の考え方を用いて組織的に取り組むことが重要であるということを学びました。また、実践しているケアで「ちょっと引っかかる」「モヤモヤする」など感じた場合には、個人で判断せず多職種で話し合う、第三者の視点で考えることを意識することが大切です。さらに、対象者を病気や症状を通して見るのではなく、「パーソナル・リカバリー」の感覚を持って理解すること、個別性の尊重が推奨されるようなチームを作っていくことが、虐待を起こさない組織風土につながっていきます。日々、倫理的なジレンマを抱えながら働いている職員も多く、吉川先生の言葉ひとつひとつが心に響きました。虐待は、精神科において避けては通れない課題のひとつです。これからも質の高いケアが提供できるように、病院全体で助け合いながら虐待防止に向けて取り組んでいきたいと思います。

30年前（平成６年）の講演会の様子

院内講演会は当院の伝統行事のひとつです。昭和56年に第１回の講演会が開催されており、今年で40回目を迎えました。毎年、医療のトピックスをテーマに選び、外部から講師をお招きしています。残っている記録をみると、開催当初は近隣病院の医師の方々が講師として名を連ねておられます。詳しいことはわからないのですが、おそらく統合失調症などの精神疾患について学んでいたのではないかと思われます。時代が平成に移ると「認知症」「接遇」「医療安全」「退院支援」、平成の終わり頃には「アンガーマネジメント」「行動制限最小化」「地域包括ケアシステム」などのテーマが選ばれています。テーマだけを見ても、時代によって病院が社会から求められるものが変化していることがわかります。さらに、10年程前からは、精神保健福祉士や看護師の方々が講師として檀上に立つようになっています。時代を経て、コメディカルがその専門性を高めていったことが伺え、多職種によるチーム医療の推進を感じることができます。院内講演会を通して、くまもと心療病院の歴史を垣間見るとともに、これまで多くの先輩方が残してくれた功績の数々に恥じないよう努力を重ねたいと思いました。

（看護管理室　副部長　堀川 利枝）

シリーズ
医療の資格⑯

認知症専門医

Dementia Specialist

認知症専門医とは、日本認知症学会および日本老年精神医学会に認定されている医師で、全国に約2,000人が登録されています(2021年11月現在)。

老年精神医学について、優れた学識と高度の技能、および倫理観を備えた臨床医を養成し、我が国における高齢者の医療の向上ならびに保健・福祉に貢献することを目的として創設された資格です。

今回は、日本老年精神医学会が認定する専門医についてご紹介いたします。

専門医は、1. 日本国の医師免許証を有すること、2. 研修医期間を含め７年以上の臨床経験を有すること、3. 精神科・神経科・老人科・神経内科・内科・リハビリテーション科・脳神経外科等の指定医ないし専門医、あるいはこれに準ずる資格を有していること、4. 老年精神医学の臨床に従事していること、5. 研修カリキュラムを終了していること、6. 認定委員会の専門医認定試験に合格すること　等の条件があります。さらに５年度ごとに更新する必要もあります。

当院には、荒木邦生院長と今井正城医局長の２名の専門医がおり、日々の診療において、認知症の早期発見や早期治療を担っています。

日本老年精神医学会専門医として認知症の診断、治療に従事しています。

認知症の前段階である軽度認知障害(MCI) の段階からしっかりと診断をして、疾患修飾薬であるレカネマブを速やかに開始できるように心がけて診療を行っています。また認知症の行動・心理症状(BPSD)にも対応した治療も行っております。

認知症の前段階・初期から重度・終末期まで幅広く対応しています。

日本老年精神医学会認定
(認知症専門医)
今井 正城 医師

オレンジガーデニングプロジェクトとは

この活動は、新潟県長岡市から始まり、全国各地に広がっているもので、宇土市は昨年から実施されており、当院は今年から参加することとなりました。

目的は認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を地域全体で支えるまちづくりの推進に向けて、認知症月間である９月に開花する認知症カラー（オレンジ色）の花を育成する活動です。

当院でも５月に宇土市から参加依頼があり、そこから作業療法活動等で花を植えたり、作品を作ったり、オレンジの糸で編み物を作ったりと、想像以上の楽しい活動となりました。認知症の方とご家族に対して優しい気持ちが広がっています。　　（認知症疾患医療センター　廣川 陽子）

発信 認知症疾患医療センター

済生会熊本病院の 橋本 洋一郎 先生

熊本県認知症疾患医療センター令和６年度第１回事例検討会を８月24日（土）熊本県立劇場大会議室で開催しました。今年度は、当院が基幹型センターの事務局を引き継ぎ、分からない事も多かったのですが、110名の参加があり、無事に開催できました。内容は、認知症の疾患修飾薬レカネマブについて、済生会熊本病院脳神経内科特別顧問の橋本洋一郎先生の講演と県内３名の医師による発表でした。各センターや脳神経内科、神経内科の先生方の参加もあり、より精神科と他科の連携が必要になる治療という事がよく理解でき、ネットワーク構築が患者さんやご家族への安心につながる事がわかりました。

お知らせコーナー

くませいフェスタ

令和６年度くませいフェスタが、去る10月8日（火）に宇城市ウイングまつばせにおいて開催され、盛会のうちに終了しました。

当院から３名の患者さまと付き添いのスタッフが参加して、他の精神科病院の皆さんとの交流や種々の競技に取り組まれ、たくさんの笑顔がはじけました。

第60回 熊本県精神保健福祉大会　永年勤続功労者表彰式

11月８日（金）くまもと森都心プラザホールにおいて開催されます。当院から勤続15年となる12名が精神保健福祉協会長より表彰されます。

日本精神科病院熊本県支部永年勤続表彰伝達式

11月14日（木）メルパルク熊本において、理事長・院長　荒木 邦生が表彰を受ける予定です。

文化祭　開催中止のお知らせ

コロナ禍で2021年から中止が続き、この秋開催に向けて準備していた文化祭でしたが、残念ながら今年度も中止となりました。

編集後記

秋になると日本らしさのある景色が見たくなりませんか。澄んだ青空の下、お城の脇に黄色の絨毯を作り出す銀杏の木。仏閣や神社と紅葉の木陰。日本の秋は美しいですね。季節のうつろいに楽しみを重ねて過ごすと、心が少しほっこりします。さて、まずは。ほくほくの焼き芋でも食べようか。皆様も素敵な秋を過ごされますように。　（地域相談支援科　有田）

関連施設

医療法人　再生会

■地域拠点型認知症疾患医療センター　☎0964-22-1106

■すみれ訪問看護ステーション　☎0964-22-0402

■認知症高齢者グループホーム「ぬくもり」　☎0964-22-1118

■小規模多機能型居宅介護「ぬくもり」　☎0964-22-7277

■うきうき地域生活支援センター　☎0964-22-2510

■自立訓練（生活訓練）事業所「ソレイユ」　☎0964-22-5366

■障がい者共同生活援助グループホーム「まつやま」　☎0964-22-5501

外来診察

	月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○	休　診
午後	○	○	○	○	○	休　診

診察	月～金曜日	午前の部	9:00～12:30
		午後の部	14:00～17:00

◆休診日：土曜日・日曜日・祝日
　　お盆休み（8月15日）・年末年始12月30日～1月3日

※ 診察券は、受診時に必ずお持ちください。（診察券は大切に保管してください）

※ 毎月最初の受診日には保険証を提示してください。

※ 診察はすべて予約が必要です。事前にご連絡ください。但し、急患はこの限りではありません。

交通のご案内

■JR鹿児島線・三角線　「宇土駅」下車
　→バス（約20分）　→タクシー（約10分）

■JR鹿児島線　「松橋駅」下車
　→タクシー（約5分）

■産交バス熊本方面から八代・松橋行
　→「松山」下車　（徒歩1分）

■産交バス松橋方面から熊本行
　→「松山」下車　（徒歩1分）

■松原交差点から八代方面へ車で約5分

医療法人　再生会
くまもと心療病院
〒869-0416 熊本県宇土市松山町1901番地
TEL.0964-22-1081（代）　FAX.0964-23-1395
E-mail info@k-shinryou.jp
ホームページ　http://k-shinryou.jp/